# I ] > // S Know the Economy & Market

# 2022年の中国経済は失速

### ポイント① 様々な課題に直面した2022年

中国国家統計局が1月17日に発表した、中国の22年10-12月期の実質GDP成長率は前年同期比+2.9%となり、市場予想を上回りました。厳格なゼロコロナ政策のもとで行動制限が行なわれたことや企業の生産活動が滞ったことなどが影響し、7-9月期から減速しました。22年はゼロコロナ政策や不動産市場低迷などの様々な課題に直面し、通年の実質GDP成長率は前年比+3.0%と失速、政府目標の「+5.5%前後」には届きませんでした。

## ポイント② 主要経済指標は予想ほど悪化せず

ゼロコロナ政策の急な方針転換で、同日発表の12月の中国主要経済指標は弱めとなったものの、市場予想ほどは悪化しませんでした。鉱工業生産指数は前年同月比+1.3%、小売売上高は感染拡大で外食が減速した一方、医薬品や自動車が伸びたことなどから同▲1.8%と、市場予想▲9.0%を大きく上回りました。ただし、13日発表の貿易統計は、米欧などの景気減速を背景に輸出が前年同月比▲9.9%と3ヵ月連続マイナスとなり、ゼロコロナ政策下で内需が不振の中、中国経済のけん引役だった外需が低調で、今後の動向が懸念されています。

#### ポイント③ 経済回復に向けて、課題の進展が鍵

これまで中国経済の重石となっていたゼロコロナ政策が撤廃されたことで、消費を原動力とした中国経済の回復の可能性が見えてきました。中国経済が更なる成長を遂げるためには、ゼロコロナ政策と並んで成長の重石となっている不動産市場の低迷、米中貿易摩擦、IT大手企業への規制などの課題の進展が重要となります。中でもIT大手企業への規制は中国政府が規制を緩める可能性との報道も出ており注目されます。

#### 中国の実質GDP(国内総生産)成長率



期間: 四半期 2018年1-3月期〜2022年10-12月期、四半期 年次 2018年〜2022年、年次 (出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

#### 中国の鉱工業生産指数、小売売上高、輸出



期間:2018年1月~2022年12月、月次 (出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

1月31日 中国製造業/非製造業PMI(購買 重要 担当者景気指数、1月) イベント



当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しします投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。